

令和7年度 第2回 温海地域振興懇談会 会議録概要

○期 日	令和8年3月19日（木） 午後2時～午後3時38分
○会 場	鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
○出席者	五十嵐 収一会長、佐藤 静夫委員、佐藤 宣夫委員、飯塚 厚司委員、三浦 英喜委員、五十嵐 美穂委員、五十嵐 美智委員、片岡 正孝委員、野尻 晶委員、佐藤 智子委員、五十嵐 潮委員、本間 久美委員（12名）
欠席者	佐藤 容介委員、佐々木 真人委員、本間 真由美委員（3名）
市側出席者	<p>【温海庁舎】</p> <p>高橋支所長  （総務企画課） 伊藤総務企画課長、 佐藤課長補佐(兼)地域まちづくり企画調整主査、五十嵐総務企画専門員、尾形主事、本間まちづくり事業推進員  （市民福祉課） 剣持市民福祉課長、川村課長補佐  （産業建設課） 渡部産業建設課長、伊藤課長補佐</p> <p>【企画部】</p> <p>（地域振興課） 鈴木地域振興課長</p>
○公開・非公開の別	公開
○傍聴者の人数	1名
○次 第	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 五十嵐 収一会長 高橋支所長</p> <p>3. 交代委員紹介</p> <p>4. 報 告  （1） 令和7年度第1回温海地域振興懇談会で出された意見への対応について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">報告資料 1</span></p> <p>5. 意見交換等  （1） 温海地域主要事業について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">意見交換資料 1</span>  （2） その他</p> <p>6. その他  ・ 鶴岡市の公共交通施策について（情報提供）</p>

<p>○委員発言の概要</p> <p>4. 報 告</p> <p>5. 意見交換等</p> <p>J委員</p> <p>伊藤総務企画課長</p> <p>D委員</p> <p>伊藤総務企画課長</p> <p>H委員</p> <p>渡部産業建設課長</p>	<p>8. 閉 会</p> <p>(1) 令和7年度第1回温海地域振興懇談会で出された意見への対応について</p> <p>※質問意見等なし</p> <p>(1) 温海地域主要事業について</p> <p>No.1 温海地域支援ネットワーク推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係人口拡大推進事業の評価について、新たな関係人口の確保ができたところであるが、具体的な目標数値を設定しその目標を達成できたということか。</li> <li>・具体的な目標としては、温海地域と交流する外部の若者が年間 80 人以上と設定したところ、2月に団体が開催した写真展に 100 人以上来たということで目標達成したと評価している。</li> <li>・令和8年度は、東京大学の学生との交流（東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム、以下「東大FS」と記載）を再開する予定であり、また新たな交流が生まれると期待している。</li> <li>・今、交流している東大生が何人で、令和8年度は何人の東大生と交流する予定なのか。3人から6人、6人から12人と交流の広がり具体的な数値を設定しているのか。</li> <li>・東大生との交流（東大FS）が始まった頃は、交流する学生が3～4名だったが、その東大生を通じて交流の輪が広がっている。来年度の東大FSに何名の学生が参加するかは未定なため具体的な数値目標は未定だが、この事業を通してさらに交流の輪が広がることを期待している。</li> </ul> <p>No.20 温海公園整備事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園利用客から、「思ったより少しさみしく感じた、休めるベンチがない。」というご意見をいただいた。今後、公園の整備を進めていく中で、ベンチの設置を検討していただきたい。</li> <li>・ベンチの整備については、多めに設置することで計画している。</li> <li>・バラの植栽については、今よりも長い期間楽しめるよう、指定管理事業者と連携し、品種選定や植栽の工夫を行っていききたい。</li> </ul>
--	--

<p>C委員</p>	<p>防災対策（情報伝達手段）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新道の駅を避難場所にするなどの話を聞いたりはあるが、住民が安心・安全に暮らせるように防災全般に関する議論を深める必要があるのではないか。</li> <li>・防災無線を集落の有線放送を通して情報伝達しているが、集落内の有線放送設備が老朽化しており、その改修には多額の費用がかかるため、インターネット活用など新たな伝達手段への転換を検討してほしい。</li> </ul>
<p>伊藤総務企画課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災対策は、温海地域の主要事業としてではなく、市全体で取り組むものと位置づけられている。</li> <li>・防災情報伝達手段として有線放送活用してきたが、設備の老朽化が課題となっている。そこで、スマートフォンを活用した「コスモキャスト※」による情報発信について、令和7年度に一部地域（藤島地域と小岩川集落）で実証実験を実施した。令和8年度からは全市展開が予定されており、有線放送に代わる新たな情報伝達手段としての活用が期待される。</li> </ul> <p>※コスモキャスト：自治体の防災行政無線の音声をスマートフォンでリアルタイムに受信できる無料の防災アプリ</p>
<p>五十嵐 収一 会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市からの防災情報は、スマートフォンで伝達できるが、集落内の情報伝達は引き続き有線放送となる。今後は、集落内での情報を誰がスマホ向けシステムに入力し発信していくか、またそれが将来的に可能になるのか。</li> </ul>
<p>伊藤総務企画課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスモキャストを活用し、集落内の情報伝達も可能である。実証実験を行った小岩川集落では、実際に数回利用されたと聞いている。特にスマホを持たない高齢者への対応が課題であるが、声かけなどで補っている状況。当面は有線放送と併用していく見込みである。</li> </ul>
<p>五十嵐 収一 会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスモキャストについては、自治会長会で、具体的な操作方法や運用方法を丁寧に説明してほしい。</li> </ul>
<p>C委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の有線放送やテレビ共聴設備が老朽化しており、更新には多額の資金が必要なため集落内でも対応を検討中である。こうした整備には市や県等の支援が不可欠と考える。</li> <li>・現在は、コスモキャストの実証実験が進められており、有効な方法の模索が期待されている一方で、スマートフォンの活用だけでは高齢者への情報伝達が不十分な可能性があり、迅速かつ確実に情報を届けるためには複数の手段を組み合わせる必要がある。地域ごとの事情や格差も踏まえた検証をしていただきたい。</li> </ul>

伊藤総務企画課長

・市として自主共聴組合への支援はなかなか難しいが、過疎計画に難視聴対策を盛り込んでいるため、今後は実現可能な支援策を探っていきたい。  
・地域全域に光ファイバーは既に整備されており、各自でインターネット活用は可能である。コスモキャストについては、光回線ではなく電波を利用しており、安定運用できるように使い方等はしっかり周知していく。

B委員

・テレビ共聴組合の運営は厳しくなっている一方で、温海地域全域に光ファイバーが整備されており、各家庭でインターネット利用が可能であるが、共聴アンテナに頼らずインターネットテレビで視聴できるのか。

伊藤総務企画課長

・温海地域は光回線によるテレビ視聴の対象外であり、現時点ではインターネットで民放を見るサービスは利用できない。

C委員

・光回線を使った有線放送やテレビは費用がかかると思うが、村上市山北地域ではお知らせや安否確認なども可能な運用があるようだ。一方で、若い世代はスマホで情報を得ることが多いが、高齢者が増える中でスマホだけに頼る方法が十分かどうかは慎重に考える必要がある。そのため、既存の有線放送・テレビシステムを含め、どのように効率的な情報伝達できるかを研究・検討してほしい。

五十嵐 収一会長

・村上市山北地域の実態を把握した上で、次回の地域振興懇談会までに説明資料を用意してほしい。

A委員

ライドシェアについて

・温海地域では、夜間にタクシーがなかなか使えないため、他の事例を参考に、ライドシェア導入の可能性を検討できないか。

鈴木地域振興課長

・ライドシェアには大きく二種類あり、①タクシー事業者が行う日本版ライドシェア、②自治体やNPOなどが行う公共ライドシェアがある。市内ではタクシー事業者による日本版ライドシェアが年末に許可を得ているものの、正式な運行には至っていない。引続き、ライドシェアについては、地域に応じた公共交通の補完策として検討していく必要がある。

A委員

集落の祭典等への行政の支援について

・行政が宗教行事に直接関わることはできないと認識しているが、高齢者のお茶会参加があり、神輿を担ぐ人手不足で祭典中止の可能性があるので、補助金など間接的な支援ができないか。

伊藤総務企画課長

・神社の祭りや行事へ行政から支援できないのでご理解いただきたい。人口が減少しても、集落の神社は自分たちで守っていくことを望む。

A委員

子育て世代の流出について

・あつみ小学校の新年度の入学生がわずか4名で、地域から子ども連れの家族が出て行く現状に失望している。地元の人が温海の良さを知らず、自分自身も努力したが成果が上がっていないと感じている。

伊藤総務企画課長

・子育て世代の流出に歯止めがかからないことを懸念しているが、決定的な対策は難しいため、関係人口の拡大や保育園留学などを通じて地域のファンを増やし、継続的な関わりや支援を促す取組に力を入れている。

A委員

ふるさと温海会の活動について

・ふるさと温海会は長年同じ活動を続けており、若い参加者もいるが、将来的に離れる可能性がある。あつかん（温海の関係人口を増やす会）や若い参加者は行政よりも個人的なつながりで関わっている印象がある。

伊藤総務企画課長

・ふるさと温海会は、交流会の開催や会報発行を継続しており、そこに関係人口が参加することによって活性化することは賛成である。あつかんの行政を介さない個人的な関わりも歓迎しており、行政はそうした関係が生まれやすい仕組みや支援を行う方針である。

B委員

No.26 林道念珠関線開設事業について

・立木調査の内容だが、杉の年数とか、民地・官地の境界などを調べるのか。作業道整備にあたり新たに周辺土地の境界調査は行わず、買収対象部分のみの立木などを処分する内容なのか。

渡部産業建設課長

・立木調査の内容は、林道予定区域について用地測量を行い、補償対象となる立木かどうかを判別し、伐採の仕分けをする。立木については、用地買収部分のみで用地測量してからとなる。

B委員

・林道整備は木材搬出の手間やコストを減らし、将来的に森林資源の価値向上にもつながるため重要であり、今後も地域の資産として活かせるよう継続的に整備を進めてほしい。また、温海地域全体の林道開設について、なかなか難しいと思うが計画的に進めてほしい。

渡部産業建設課長

・林道開設事業は、森林の価値向上や適切な時期の伐採による木材の高付加価値販売を目的としており、その実現に向けて努力していく。

<p><b>D委員</b></p>	<p>No.28 道の駅あつみ振興事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①物産振興支援では生産者団体への具体的な伴走支援の内容、②誘客促進事業の具体的な考え方を教えてほしい。</li> </ul>
<p><b>渡部産業建設課長</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①物産振興支援については、伴走支援として、生産者と運営事業者のつなぎ役を担い、現在しゃりんに出荷している人たちが道の駅うえるかぶにも出荷できるよう促す。また、地域食材の6次加工品の開発・販売も目指し、市として事業者と連携して支援していきたいと考えている。</li> <li>・②誘客促進事業については、県内イベントでのプロモーションを中心に行い、県外でも人の流れが見込める商業施設などで展開をしていくことになるかと思う。事業者と相談しながら、新しい道の駅の魅力を発信できる場所を探していく。</li> </ul>
<p><b>B委員</b></p>	<p>森林におけるJクレジットの取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林組合の総代会でJクレジットの取組が説明されたことを踏まえ、現在の状況と将来の展望、森林資源の中でどのように活用されていくのか教えていただきたい。</li> </ul>
<p><b>A委員</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Jクレジットの正式な市場取引は、2026年4月から始まる予定だが、現在、関川集落での取組は3年かかっており、最終検査だけで1年を要するなど検査自体も非常に難しい。取引方法や価格の問題もあるが、温海地域において、さらに進めるには土地の境界を明確化する必要がある。森林管理制度について、山形市内では境界を明確化せずに制度を実施した例があり、情報共有するところだが、境界の明確化は費用と手間がかかるため、今後も何年かかるか分からない状況で進められている。</li> <li>・現在、バイオマス発電が盛んで、山形県ではこれで生計を立てられると言われているが、木材を全量燃やすと約4年半で日本の山は枯渇する見込みである。そのため、プラスチックの代替やお酒製造など多様な取組が進められている。将来的には杉の利用も拡大し、採算が合えば森林資源の活用はさらに期待できる。</li> </ul>
<p><b>K委員</b></p>	<p>No.2 温海地域家族まるごと移住体験事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、子育て家族を対象としているが、若い世代向けにも実施する考えはないか。</li> </ul>
<p><b>伊藤総務企画課長</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この事業は、都市部の保育園児を持つ家族を対象に、1～2週間、温海地域に滞在してもらうもので、子どもは鼠ヶ関保育園に通園し、保護者からはリモー</li> </ul>

トワークや体験観光をしてもらいながら温海地域の暮らしを体感してもらう取組である。

五十嵐 収一 会長

・地域振興課で鶴岡市全体の若者を含めた移住定住、Uターン・Iターン対策に取り組んでいる。

鈴木地域振興課長

・市の移住・定住対策は若者に限らず年配者も対象で、首都圏のブース出展などで相談を受け、希望者には1～2週間の短期や1か月から最長6か月の中長期のお試し住宅を紹介して、実際に暮らしてみる機会を提供している。

五十嵐 収一 会長

地域おこし協力隊の新たな募集について

No.6 地域学校協働活動推進事業（あつみ地域未来塾）について

・令和8年度以降、地域でこういうものを目的に地域おこし協力隊を募集して、進めていきたいという考え方があるか。地域おこし協力隊の鈴木さんから未来塾を一生懸命やっていただいたが、それに変わるべき人や体制をどのように考えているか。

・高校入試が令和7年度から前期・後期日程に変更され、前期は推薦制度ではなく内申書や作文・面接で合格者が決まる方式になった。その影響で、未来塾の受講者が講義期間の途中で減っているという報告があった。そこで、未来塾が前期受験者の学習支援や内申書向上に向けてどう取り組むか、また後期受験者に対する体制をどうするかという点について考えを聞かせてほしい。

伊藤総務企画課長

・地域おこし協力隊の新たな募集については、今のところ総務企画課では考えていない。

・今年度から入試制度が大きく変わっている。「未来塾」はこれまでどおり事前・事後のアンケート（生徒・保護者・中学校教員対象）でニーズを把握しながら実施している。令和8年度も事前調査をしっかりと行い、現在に合った最適な形を検討していく。地域おこし協力隊の方からは、退任後もサポートしていただけるとのことから、一緒により良い形の「未来塾」を模索していく。

(2) その他

※協議事項等なし。

## 6. その他

(1) 鶴岡市の公共交通施策について（情報提供）

※鈴木地域振興課長から、高齢者等外出支援事業補助金（ゴールドパス）に係る市民負担額の変更と、高校生等通学費支援事業に係る市民負担額の変更（自家用車加算の廃止等）について説明

C委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールドパスはお得さを強調しているが、バス運賃がどの程度値上がりするかわからないが、それを補えるのか。</li> </ul>
鈴木地域振興課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールドパスはバス運賃値上げにより市民負担は増えるが、3か月以上の購入で負担が軽減される仕組みであり、市全体の支出は増加する。</li> </ul>
五十嵐 収一 会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生等の通学費支援で温海地域・朝日地域で取り組んできた自家用車加算が廃止されると、年間で約10万円の差が生じる家庭もあり、保護者にとっては驚きがあるのではないか</li> </ul>
J委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この制度について、市街地の保護者から不公平感が強いとお話があったが、温海地域や朝日地域の保護者から何かご意見等あったのか。また、説明の機会があったのか。</li> </ul>
鈴木地域振興課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温海と朝日地域でスタートしたこの事業は、令和6年度から全市に拡充しており、自家用車加算含め補助内容を見直した。</li> <li>・保護者への説明の場は設けていないが、検討にあたっては、地域庁舎の担当者から地域の現状を聞き、それらを踏まえ見直しした。</li> <li>・自家用車加算については、通勤途中の送迎や通勤費（勤務先からの通勤手当）との重複、公共交通利用への補助額より自家用車補助額が大きくなる場合もあり、車利用への支援になっているとの意見もある。（自家用車のみの送迎に支援なし。）自家用車送迎の実態の把握が難しく正確な判断が困難であるため、公平性と制度本来の目的である公共交通の利用促進に重点を置き、制度を見直し、将来にわたり支援できるように変更した。</li> </ul> <p>(2) フォレストフィールドセミナーについて（情報提供）</p> <p>※佐藤 静夫 委員から、温海町森林組合の令和8年度の事業紹介。森林資源活用事業として市の支援を受け実施する。地元の皆さんからもぜひ参加してほしい。</p> <p>(3) 令和8年度温海庁舎の組織変更について（情報提供）</p> <p>※伊藤総務企画課長から、令和8年4月1日から総務企画課と市民福祉課が統合し、地域づくり推進課となる。全地域庁舎同じ（朝日庁舎は令和7年度から）であることを説明。</p>